

<様式1>

令和3年度 さいたま市立柏陽中学校 自己評価書

校長 渡邊 哲哉 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) GIGA スクール構想による、タブレット端末を活用した授業の円滑な実施・タブレット端末を活用による研究を推進する
 - ・画像や動画を用いたわかりやすい授業を推進する
 - ・遠隔地とつながる授業を推進する
- (2) 学ぶ意欲（分かる楽しさ）を高める授業・学習指導の充実を図る
 - ・自主的に学習する姿勢や態度を育成するとともに家庭学習の充実を図り、学力の向上を目指す。
 - ・分かる、分かり合う、わかりたくなる授業づくりを推進する
 - ・潤いの時間やグローバルスタディを通してコミュニケーション自分の考えを論理的に組み立て、積極的に発信する能力の育成を図る
- (3) 豊かな人間性・豊かな心・生きる力の育成を図る
 - ・自ら考え行動できる生徒の育成に努める
 - ・人権意識を高め、いじめや差別にない人間性の育成し、生徒が安心して生活できる学校づくりを推進する
- (4) コミュニティスクール実施に向け、学校・地域・行政の連携を推進する
 - ・保護者・地域と連携しながら校内外の事故防止につとめ「生徒にとって安心・安全なし学校づくり」に努める
 - ・福祉・ボランティア活動の活性化に努める
- (5) 教職員が学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る
 - ・ICT 機器の活用により校務の情報化を図り、生徒と向き合える時間を確保する
 - ・在校時間の管理を適切に行う。

2 評価結果について

- ・よい授業のアンケートの「ICTの活用」の設問に対して1学期は2.6 2学期は3.0でありICT機器の活用機会が増えていると考えられる。しかし、教科によって数値に差があることが課題となる。
- ・「授業中は、進んで学習に取り組んでいますか」について肯定的な回答をした生徒は90.3パーセント、「学校の授業内容は分かりますか」について肯定的な回答をした生徒は89.7

パーセントで概ね良好といえる。しかし、「家庭学習をやっていますか」についての肯定的な回答は生徒が 63.0%、保護者が 57.1%であった。家庭での学習習慣の確立が課題となる。

- ・授業改善についてはよい授業の4つの因子の結果をもとに各教員が指導方法の工夫や改善に取り組もうとする姿が見られた。・教員に対して実施したアンケートの中で「基礎的・基本的な学力を身につけさせることができたか」の設問に対して「よくあてはまる」が 9.1%、「どちらかといえばあてはまる」が 86.4%であった。課題として基礎的な内容の定着の状況を把握するための学力調査・学習状況調査が特に1・2年生についてはここ2年間は実施されていないため上述の事項の客観的な状況が把握しにくいことである。
- ・「友達や家族にいつも思いやりをもって接していますか」の設問に対して肯定的な回答は生徒が 95.4%、保護者が 96.3%であった。また、「先生方は悩みに相談にのってくれますか」については生徒の 98.2%、保護者の 85.3%が肯定的な回答であった。
- ・校務の情報化については校務用端末のシステムが変更になり操作について教職員が慣れのに時間がかかる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・基礎学力の確実な定着にむけて、小中学校連携して取り組む必要がある。小・中一貫教育のための計画を作成して相互に協力をしながら推進していく必要がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」についての授業実践を積み重ね、教員が相互に授業参観等を通して学び合うことが必要となる。
- ・いじめや不登校、教育相談等の課題については、生徒の豊かな人間性を醸成する積極的な生徒指導、適切ないじめの認知や生徒・保護者の心に寄り添う教育相談を行うとともに、全職員が情報を共有し、組織的に対応する体制をさらに強化する必要がある。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。